

お知らせ

人権ってなあに

人権施策推進課 (☎6560、FAX6013)

今月の
人権今月の人権 女性・子ども・高齢者・障害者・
外国人・患者
同和問題

ふれあいのまち 差別のないまち

9月は同和問題啓発強調月間です

同和問題の解決に向けて

同和問題は、生まれたところや住んでいるところによって様々な差別を受けるという、日本固有の人権問題です。

これまでの同和問題の解決に向けた取り組みによって、表面的な差別は少なくなってきましたが、今なお、誤った認識や偏見による差別が根強く残っています。

この問題を一日も早く解決するため、私たち一人ひとりが、自分自身の問題として「気づき」「考え」「行動する」力を身に付けることが大切です。

◆◆◆◆◆ 9月からのイベント・行事のお知らせ ◆◆◆◆◆

同和問題啓発強調月間の街頭啓発

と き 9月3日(月)
16時～
ところ ジャスコ長浜店
(店舗前)



人権尊重啓発作品展

と き 9月25日(火)～10月16日(火)
ところ 長浜市
※市内の小学生・中学生が作成した人権啓発
のポスター・標語・書写などを展示します

じんけんフェスタしが2007(県主催)

と き 9月15日(土) 10時～16時30分
ところ ひこね市文化プラザ
講 演 ケント・ギルバートさん(タレント)
シンポジウム
コーディネーター 安藤仁介さん<(財)世界人権問題研究センター所長>
パネリスト ケント・ギルバートさん
高嶋紀子さん<ジャーナリスト>
ふれあいコンサート アグネス・チャンさん
お問合せは、県人権施策推進課(☎077-528-3533、FAX077-528-4852)へ。



「子どもの人権110番」強化週間

心配ごとや悩みがある小学生・中学生・高校生や、
子どものことで悩んでおられるご家族の方など、お気軽にご相談ください。
強化週間 9月17日(月)～9月23日(日)
電話相談 0120-007-110(フリーダイヤル)
時 間 8時30分～19時(土・日は10時～17時)
お問合せは、大津地方法務局(☎077-522-4673、FAX077-522-5317)へ。



助産師外来をめざしています

助産師による相談を行っています

市立長浜病院では、昨年7月から妊婦さんを対象とした助産師による相談コーナーを設けています。

妊婦さんには、妊娠・出産・育児等について疑問があってもなかなか聞けないという方が大勢いらっしゃると思います。そこで助産師は、妊娠週数に応じて気をつけたほうが良いことなどのアドバイスや授乳期のおっぱいに関すること、赤ちゃんの発育についての疑問や悩みなどの相談を受けています。

助産師外来設置のメリット

助産師外来とは、助産師が産婦人科医師の診療から自立して妊産婦健診を担当し、妊娠中から産後まで継続的な関わりの中で、母と子、そして家族の支えとなることを目的としています。妊婦さんと助産師が、妊娠中から分娩、育児相談にいたるまでの一連の関わりを通して十分なコミュニケーションをとることで信頼関係が築け、お産等に対する不安をやわらげることができます。

医師の診察との違いは？

基本的に正常な経過を診察するうえでは違いはありませんが、健診に加えて、個別にこれからの分娩・パースプランや育児に対しての心と身体の準備やマタニティーライフでの心配なことや不安なことを解決できるお手伝いをしています。

今後の助産師の役割

これまで、お産の介助と産後の母子ケアが主な役割で、妊婦健診を受け持ったことがない助産師がほとんどでした。「助産師外来を担当するにあたり、各自の能力にあわせて今後研修を重ね、全ての助産師が外来を受け持てるようにしていきたい。」と梅本看護科長補佐(助産師)。

このような取り組みは、助産師自身のやりがい、自立につながり、産婦人科医師不足の現状から医師の負担を少しでも減らすことができ、安心・安全な医療につなげることができます。

将来的には・・・



助産師は、正常なお産を単独で介助することが法律で認められています。ただ、お産の途中で異常が確認された場合は、医師による診断が必要とされます。そこで、市立長浜病院では、助産院と病院の双方の利点を取り入れ、医療体制の整った病院で、助産師がより積極的に妊婦さんに関わっていきたくと考えています。

平成21年4月には院内に助産院を設け、正常分娩の場合は、助産師だけで出産の介助が行えるようにしていきたいと考えています。

◆助産師による相談日

【診察時間】月～金曜日
10時～15時

【対 象】経過が順調な妊婦さんのうち希望される方、乳房トラブルなどおっぱいに不安をもっておられる方

【お問合せ先】4階東棟
☎682300(代)

お子さんのいびきが
気になりますか？

市立長浜病院 耳鼻咽喉科
有 方 雅 彦 先生

数年前よりみなさんに知られるようになった睡眠時無呼吸症候群ですが、小児期のいびき、睡眠時無呼吸の主な原因は、口蓋扁桃肥大とアデノイド肥大です。

アデノイドは3～6歳、口蓋扁桃は5～7歳

で最も大きくなり、学童期後半に小さくなると言われていますが、個人差が大きく、成人しても肥大が持続することがあります。

いびきがアデノイド・口蓋扁桃肥大によるものであれば、手術による効果が十分期待できます。睡眠時無呼吸は身体発育・行動障害・循環器系疾患等へ影響を与えるとされています。親の心理でお子さんの手術は避けたいものですが、長い目で見れば有効と思われます。

お子さんが寝ている時に苦しそうにしているませんか？気になるようでしたら、一度受診してください。